

(様式1)

学校番号 (小)・中 031)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(芳川小)学校運営協議会長

<本年度の目標>

協議結果を地域住民まで報告し、ボランティア活動を自治体まで広げ、御理解御協力いただける働きかけができるような成果に繋がる情報発信を模索していく。

子供の安心、安全のため、学校、地域、保護者の連携をよりスムーズにする。登下校時の送迎に伴う危険度の認知と危険度の緩和のため、地域住民の協力も求めながら、どのような支援協力のあり方が良いのか協議を続けたい。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ よくできた できた あまりできなかった できなかった

(理由)

基本方針の中で、本年度に力を注ぎたい点として、「子供の主体性を育てたい。」と、校長からプレゼンを受けた。≪主体的に学び、関わり、鍛える子供の姿≫を目標として、育成していきたいという具体的な説明があり、委員全員が方針を理解、共有できた。地域や学校が協力できることや、方法について協議した。子供の安心安全に関しては、いじめ防止対策についての方針や実態、年間指導計画について協議できた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ よくできた できた あまりできなかった できなかった

(理由)

教職員と委員の合同協議会で、主体性を育むための教育方針について協議した。「ほうがわクスノキ応援団」団員による授業補助や、環境整備活動が充実した。学校行事も含めた諸活動でのボランティア依頼を通して、学校と保護者、地域の方との橋渡しとしての支援ができた。活動に際しての改善点や協力方法を具体的にあげ、より深い協議ができた。教育目標に即した支援として、ピンクシャッターなどへの子供たちの主体的な参加も促していく。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ 充分に行った 行った あまり行わなかった 行わなかった

(理由)

学校ホームページ、さくら連絡網を使ってのコミスクだよりなど、発信の継続は行えた。学校運営協議会自体の知名度は低く、協議結果の発信、周知としては浅いと感じられる。地域住民、自治体まで広がる発信としては、十分とは言えない。登下校時の送迎の安全に関して、危険度の認知と緩和の点において、情報発信共有は難しかった。過日、正門前で、車両同士の事故が発生。この事故をきっかけに今後の対策も協議中である。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

自治体や保護者に対して、より伝わる形で協議会の内容や成果の情報も届け、学校運営協議会への認知・関心を広める方法を模索していく。登下校、送迎時の事故防止にもつながる子供の安心安全を支える持続可能な協力関係の構築を図る。子供の主体性を育てるため、どのような協力ができるのか熟議していく。